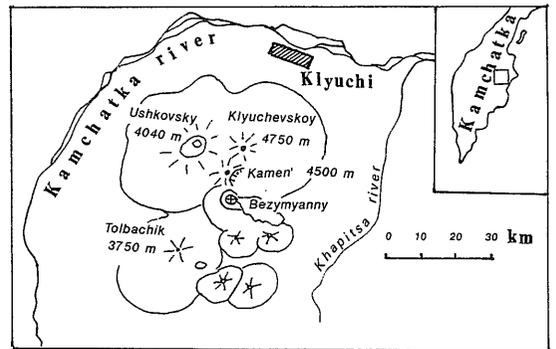


写真 1. Klyuchevskoy 火山10月1日の噴火。山腹を流れ下った溶岩が氷河と出会って水蒸気爆発を引き起こした(白い噴煙)。背景は山頂噴火の噴煙(左後方)と噴煙柱が崩壊してできた火砕流(白煙の右)。Kamen 火山との間の峠(標高2,900 m)から北東方を望む。写真：Nikolai SMELOV

## Klyuchevskoy 火山 1994年の噴火

カムチャツカ最高峰の Klyuchevskoy 火山 (4,750 m) が、今年 (1994) 9-10 月噴火した。この火山は、アリューシャン弧と千島弧の会合部に位置するカムチャツカ半島中部の玄武岩質火山で (第 1 図)、比較的新しい円錐形山体は約 7,000 年の噴火史をもつ。近年の活動は山腹噴火が主で、時に山頂噴火を伴うものであったが、今年の噴火は大規模な山頂噴火であったことに特徴がある。山頂火口から 3-5 km に達する噴煙を吹き上げた後、溶岩が出て南東斜面を 2 km ほど流れた。10 月 1 日の噴火は特に規模が大きく、噴煙が高さ 30 km に達し東南東に 2,500 km 以上も流れた。溶岩噴泉も 1.5 km に達したことが観測された。また、隣接する Kamen 火山の方向に流れた溶岩は氷河に出会って水蒸気爆発を引き起こし、高さ 3 km に達する噴煙を発生させた (写真 1)。この噴火は 10 月 3 日に終わったが、近



第 1 図 Klyuchevskoy 火山の位置。

うちに山腹噴火が起こると予想されている。口絵第 4 ページ参照。(10月27日稿)

(カムチャツカ火山研究所 Alexei OZEROV, 火山地質地球化学研究所 Yuri TARAN, 地質調査所 佐藤興平)